



株主通信

2023年1月1日-2023年12月31日
窪田製薬ホールディングス株式会社
証券コード：4596

議 決 権 行 使 の お 願 い

本定時株主総会の議案の中には、当日ご出席、または議決権行使書のご提出及びインターネットで議決権を行使いただいた株主の皆様の議決権数の合計が、総議決権数の3分の1以上であることが必要となる議案がございます。

つきましては、当日ご出席願えない場合は、なにとぞ「第9期定時株主総会招集ご通知」に同封されている議決権行使書（郵便はがき）に賛否をご表示いただき、折り返しご送付いただくか、インターネット*で議決権を行使いただきますようお願い申し上げます。

*<https://www.web54.net>



窪田製薬ホールディングス株式会社
代表取締役会長、 社長兼最高経営責任者
窪田 良 MD, PhD

CONTENTS

- 2023年のTopics
- CEOメッセージ
- マネジメント
- 開発パイプライン
- 窪田製薬グループの歩み
- 特集
- 財務ハイライト
- 企業情報及び株主情報

2023年のTopics

第5回 日本近視学会総会へ登壇

2023年5月13日～14日に九州大学医学部百年講堂で開催された第5回日本近視学会総会でCEO窪田良が「軸外収差理論を用いた屋外環境再現眼鏡型ARデバイスによる小児における近視抑制効果」をテーマに発表いたしました。

また、本学会期間中に、九州地方では初のポップアップストアを福岡で開催しました。期間中は、福岡近郊にお住まいの方や遠方からのお客様だけでなく、本学会に参加された眼科医の方々にも来店いただき、たくさんの方々にKubota Glassをご試着いただきました。



eyeMO シンガポール国立大学病院との共同研究を締結

シンガポール国立大学病院はシンガポールを代表する大学病院で、年間100万人以上の患者を診療し、医学の未来を形作る研究に力を注いでいます。この契約はシンガポール国立大学永祿林医学部眼科学科長のビクター・コー助教授による主導のもとeyeMO(PBOS)の実用性について評価してまいります。

IQVIAサービシーズジャパン合同会社とベンダー契約を締結

当社が開発する遠隔眼科医療用網膜モニタリング機器 eyeMOにおいて、IQVIAサービシーズジャパン合同会社とベンダー契約を締結しました。本契約は、中外製薬株式会社が資金提供を予定する特定臨床研究に向けて締結され、調整管理実務担当機関として介入するIQVIAから当社に本機器の貸与費用が支払われる予定です。本研究では、糖尿病黄斑浮腫患者に対し、患者自宅で本機器の使用が可能であることを検証します。また、網膜厚測定及び網膜内・網膜下浮腫の有無判定のための網膜状態の測定値の妥当性を医療者によって判断します。なお、本研究の前には、フェージビリティスタディーを実施する予定です。

CEOメッセージ

世界から失明を撲滅するために　まず日本から失明を撲滅する



私たちは、「世界から失明を撲滅する」という壮大な夢を掲げています。これは、創業から今日に至るまで、私たちの研究開発、製品提供、そして社会貢献活動の核心を形成しています。

2023年は、この目標を日本から実現させるための重要な一歩を踏み出した年でした。今日、私たちは2024年の展望に目を向け、さらに大きな飛躍を目指しています。

我々のエミクススタト塩酸塩に関する研究は、未来の治療法の可能性を秘めています。未だ治療法のないスターガルト病に対し、新薬が提供できれば、失明の撲滅に向けて大きな一歩を歩めると確信しています。また過去一年間の活動としては、私たちは日本国内での活動に焦点を当て、クボタメガネの普及を加速させました。このイノベーションは、我々の唯一無二の商品であり、まだまだ成長可能性があるかと期待しております。その他、遠隔眼科医療用機器eyeMOについても遠隔地や医療アクセスが限られた地域においても、目の健康を守る新たな方法を提供を目指しています。



CEOメッセージ

2024年の展望と目標

1. グローバル展開の加速：クボタメガネの国際市場への拡大を進め、世界各地での近視撲滅に貢献します。また、eyeMOのパートナー提携を進めることで、遠隔医療の可能性を世界に示します。
2. エミクススタ塩酸塩の開発進展：2023年に得られた学びを基に、引き続きパートナーシップ獲得の活動を強化していきます。また、現在ある有効性データを元に、様々な国や地域に存在する早期承認制度、条件付き承認制度などの活用も目指して行きたいと考えています。
3. 教育と啓蒙活動の拡大：近視のリスクと予防に関する知識の普及をさらに進め、特に若年層を中心に健康な視覚習慣の形成を促します。たかが近視で終わらせるのではなく、しっかりと正しい対策ができるように啓蒙活動を進めていきます。

私たちは、一人でも多くの人々が「目が見える」という喜びを享受できるように、革新的な医薬品と医療技術の開発に取り組み続けます。2024年も、失明のない未来への道を切り拓くために、皆様とともに歩んで参ります。

2024年3月吉日

窪田製薬ホールディングス株式会社

代表取締役会長、社長兼最高経営責任者

窪田 良 MD, PhD



2023年度のマネジメント体制



窪田良MD,PhD

窪田製薬ホールディングス株式会社代表取締役会長、社長兼最高経営責任者（CEO）クボタビジョン・インク会長、社長兼最高経営責任者（CEO）



市川 今代

窪田製薬ホールディングス株式会社取締役、最高事業責任者（CBO）クボタビジョン・インク取締役



牧 恵美子

阿部・井窪・片山法律事務所パートナー



堀内 勉

一般社団法人100年企業戦略研究所代表理事・所長、株式会社バルテックス取締役会長、多摩大学大学院教授、多摩大学社会的投資研究所所長



吉崎 浩一郎

株式会社グロース・イニシアティブ代表取締役、株式会社アルフレックスジャパン社外取締役、株式会社イード社外取締役、クックビズ株式会社社外取締役、ライフスタイルアクセント株式会社社外取締役、ブティックス株式会社社外取締役、グロースポイント・エクイティLLPパートナー、株式会社No.1社外取締役、株式会社ニューズ・ツー・ユーホールディングス取締役、シルバーエッグ・テクノロジー株式会社社外取締役

2024年度のマネジメント体制（想定）



窪田良MD,PhD

窪田製薬ホールディングス株式会社代表取締役会長、社長兼最高経営責任者（CEO）クボタビジョン・インク会長、社長兼最高経営責任者（CEO）クボタビジョン・ジャパン代表取締役会長、社長兼最高経営責任者



市川 今代

窪田製薬ホールディングス株式会社取締役、最高事業責任者（CBO）クボタビジョン・インク取締役、最高事業責任者（CBO）クボタビジョン・ジャパン取締役、最高事業責任者（CBO）



牧 恵美子

阿部・井窪・片山法律事務所パートナー



堀内 勉

一般社団法人100年企業戦略研究所代表理事・所長、株式会社バルテックス取締役会長、多摩大学大学院教授、多摩大学社会的投資研究所所長



吉崎 浩一郎

株式会社グロース・イニシアティブ代表取締役、株式会社アルフレックスジャパン社外取締役、株式会社イード社外取締役、クックビズ株式会社社外取締役、ライフスタイルアクセント株式会社社外取締役、ブティックス株式会社社外取締役、グロースポイント・エクイティLLPパートナー、株式会社No.1社外取締役、株式会社ニューズ・ツー・ユーホールディングス取締役、シルバーエッグ・テクノロジー株式会社社外取締役

パイプライン

開発パイプラインの状況

デバイス		デザイン及び プロトタイプ	臨床試験及び 製品開発	承認・認証 510(K)
ウェアラブル近視デバイス	クボタメガネ			
在宅・遠隔医療眼科医療用網 膜モニタリング機器 eyeMO: Patient Based Ophthalmology Suite	超小型モバイルOCT (網膜、光干渉断層撮影機器)			
	NASA宇宙飛行士モニタリング デバイス			

低分子化合物		前臨床	第1相	第2相	第3相
エミクススタト塩酸塩	スターガルト病				
	増殖糖尿病網膜症				

当社の強み



- ☑ 眼科領域での高い専門性
- ☑ 最先端技術、特許戦略
- ☑ 国際性

膨大な市場で販売拡大とデータの蓄積を実施

知的財産を活用し、戦略的に事業を展開

エミクススタト塩酸塩の解析データをもとにパートナー企業との提携を模索

窪田製薬グループの歩み



特集Ⅰ 市川 今代氏インタビュー

取締役、最高事業責任者(CBO)の市川による2023年の振り返りと、2024年に向けた抱負を掲載

2023年は、会社にとって非常にチャレンジングな一年となりました。特に中国における小児近視に対する課題感是非常に高いことが実感でき、私たちのビジネスにおいても重要な事象であることを再認識いたしました。一方で、会社の財務状況を鑑みても、今はより一層の選択と集中による改革が求められており、会社としての成長と目標達成のための具体的な道筋を描き、それを実現するために日々努力を重ねております。私たちが創業以来追い求めてきた「世界から失明を撲滅する」という使命は、日々の研究開発、製品提供、社会貢献活動の核心に位置しています。2024年においては、会社のビジネス基盤を整えつつ、この野心的な目標に対してさらに大きな飛躍を達成できるよう、邁進してまいります。主要な取り組みである、エミクススタ塩酸塩の研究開発、クボタメガネの研究開発ならびに販売活動、そしてeyeMOを通じた遠隔眼科医療の研究などは、私たちが目指す目標に向けて重要なステップであると考えております。しかしながら、同時に直近のキャッシュフローの安定化は重要な経営課題であると認識しており、コスト削減と投資のバランスが重要と考えております。

また、医療領域であるため、疾患に関する啓蒙活動も非常に重要と考えております。特に近視については、発症率が高い一方で、若年化が進む実態とそのリスクについてあまり広く認識されていない現実もあります。これらの活動については、決して一社で取り組むのではなく、業界として世界中に知識を広め、より多くの人々が視覚障害の問題から解放されることを目指していくべきだと考えております。

株主の皆様の継続的な支援と信頼は、私たちの事業を成長させ、この野心的な目標を実現する上で欠かすことのできない力です。失明のない未来への道を共に歩むことができることを、心から感謝しております。2024年も、皆様の変わらぬご支持を賜りますよう、お願い申し上げます。



窪田製薬ホールディングス株式会社 取締役、最高事業責任者(CBO)

クボタビジョン・インク 取締役、最高事業責任者(CBO)

クボタビジョン・ジャパン株式会社 取締役、最高事業責任者(CBO)

市川 今代

特集Ⅱ ZERO Diopter Project

～ 豊洲からはじめる近視撲滅プロジェクト ～



2023年10月に発足したZERO Diopter Project。このプロジェクトは矯正を必要とせず、裸眼でクリアに物が見える世界を目指した活動です。急激に進むIoT化によって生活環境が大きく変化し、視力低下する年齢は若年化しているほか、大人になっても視力が低下し続ける方が増加しています。本プロジェクトはセミナーやイベント活動を通じて、近視のメカニズムや対処法に対する知識を広め、目を悪くしないための生活習慣を身につけていただき、病気の早期発見に向け、眼科検診の受診を促します。

2023年12月6日には東京アメリカンクラブでキックオフセレモニーが行われ、約80名の起業家や企業の健康経営担当者、コミュニティ運営者などが参加しました。トークセッションには、ソニーコンピュータサイエンス研究所上級研究員で脳科学者の茂木健一郎氏、品川女子学院理事長の漆紫穂子氏、ファシリテーターとして瀧口友理奈アナウンサーをお招きし、品川女子学院でのアンケートの内容や近視に関するディスカッションを行いました。

現在、健康経営に関心のある企業様での近視に関するセミナーや検査の実施や自治体・地域コミュニティでの近視の啓蒙活動、近視相談室を実施しています。それぞれのニーズに合わせ、簡易検査や個別相談を実施し専任スタッフから個別のアドバイスをお伝えしています。参加者の方からは「日常生活を見直すきっかけになった」や、「積極的に外に出て遠くを見る時間を持つと思う」などの声が寄せられています。今後はこの取り組みを豊洲からベイエリアに拡大し、1人でも多くの方へ情報をお届けできるよう活動をしてまいります。



財務ハイライト

連結損益計算書の概要(IFRS)

単位：百万円	1月1日～12月31日の 12ヶ月間		増減額	増減の主な要因
	2022年度	2023年度		
事業収益	8	40	+32	・ Kubota Glassの売上の増加
事業費用	2,120	1,433	△687	
売上原価	6	12	+6	
研究開発費	1,513	789	△724	・ エミクススタト塩酸塩の研究開発費用の減少 ・ ウェアラブル近視デバイスの開発費用の減少
販売費及び一般管理費	601	633	+32	・ Kubota Glassの販促費の増加
その他の営業収益	—	—	—	
営業損失（△）	△2,038	△1,394	+644	
当期損失（△）	△2,016	△1,379	+637	

財務ハイライト

連結財政状態計算書の概要(IFRS)

単位：百万円	2022年 12月末	2023年 12月末	増減額	増減の主な要因
流動資産	4,182	2,869	△1,313	
現金及び現金同等物、 その他の金融資産	4,049	2,768	△1,281	(※)
非流動資産	238	258	20	
その他の金融資産	—	—	—	(※)
資産合計	4,420	3,127	△1,293	
流動負債	361	283	△78	・買掛金および未払債務の減少
非流動負債	109	87	△22	・リース負債の減少
資本	3,950	2,757	△1,193	・当期損失計上による利益剰余金の減少
負債及び資本合計	4,420	3,127	△1,293	
(※) 手元資金 現金及び現金同等物、その他の 金融資産(流動・非流動)の合計	4,049	2,768	△1,281	・△1,323百万円：営業CF ・+148百万円：新株予約権の権利行使に伴う株式発行による収入 ・+3百万円：換算差額

企業情報及び株主情報

名称	窪田製薬ホールディングス株式会社
英文名称	Kubota Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.
設立	2015年12月
所在地	東京都港区南青山1丁目15-37
電話番号	03-6550-8928（代表）
執行役 （2023年12月31日現在）	代表取締役会長、社長兼最高経営責任者(CEO) 窪田良MD、PhD、取締役兼最高事業責任者 （CBO）市川今代
取締役 （2023年12月31日現在）	代表取締役会長、社長兼最高経営責任者(CEO) 窪田良MD、PhD、取締役兼最高事業責任者 （CBO）市川今代、牧恵美子、堀内勉、吉崎浩一郎
発行済株式総数	56,266,488株（2024年2月29日現在）
株主数	24,519名（2024年2月29日現在）

大株主の状況（2024年2月29日現在）

株主名 (敬称略)	持株数	持株比率
窪田 良	10,250,654株	18.21%
株式会社SBI証券	939,900株	1.67%
水野 親則	790,000株	1.40%
吉田 望	549,400株	0.97%
津田 潤一	350,000株	0.62%
水谷 豊	300,000株	0.53%
山下 良久	257,100株	0.45%
阿部 文雄	252,900株	0.44%
野村證券株式会社	235,032株	0.41%
DNP HOLDING USA CORPORATION	222,222株	0.39%

株主メモ

- 証券コード東証グロース4596
- 決算期12月31日
- 定時株主総会議決権基準日2月末
- 売買単位100株
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
三井住友信託銀行株式会社東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
- 事務取扱場所三井住友信託銀行株式会社証券代行部
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
電話0120-782-031（通話料無料）
同郵送先〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社証券代行部

免責事項

本資料は関係情報の開示のみを目的として作成されたものであり、有価証券の取得または売付けの勧誘または申込みを構成するものではありません。本資料は、正確性を期すべく慎重に作成されていますが、完全性を保証するものではありません。また本資料の作成にあたり、当社に入手可能な第三者情報に依拠しておりますが、かかる第三者情報の実際の正確性および完全性について、当社が表明・保証するものではありません。当社は、本資料の記述に依拠したことにより生じる損害について一切の責任を負いません。また本資料の情報は、事前の通知なく変更される可能性があります。本資料には将来予想に関する見通し情報が含まれます。これらの記述は、現在の見込、予測およびリスクを伴う想定（一般的な経済状況および業界または市場の状況を含みますがこれらに限定されません）に基づいており、実際の業績とは大きく異なる可能性があります。今後、新たな情報、将来の事象の発生またはその他いかなる理由があっても、当社は本資料の将来に関する記述を更新または修正する義務を負うものではありません。